

平成 30 年 10 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 30 年 10 月 29 日 (月) 午後 1 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 301

3 出席委員の氏名

教育長	仲野 孝	教育長職務代理者	黒川 優子
委員	山崎 克弥	委員	中野 信男
委員	秦 久美子	委員	齋藤 純郎

4 説明のため出席した職員

教育次長	山田 公一	主 幹	二平 芳信
学校教育課長	宮路 一規	子育て支援課長	白井 健次
社会教育課長	更科 明大	指導主事	大井 玲子

5 本委員会書記

学校教育課 太田 和行 他2名

6 傍聴人

1名

7 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 13 号 共催・後援の教育長専決報告について

報告第 14 号 燕市一時保育事業実施要綱の一部改正について

協議題

協議第 8 号 新規共催・後援申請について

議 案

議案第 34 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

その他

- (1) 齋藤和夫前教育委員の地方教育行政功労者表彰の受賞について
- (2) 分水小学校区における保育園の整備・運営事業者募集要項について

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について
〈各課長が報告〉

(2) 教育長報告
〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

- 平成30年第3回(9月)市議会定例会が終わり、園や学校訪問を実施している。園児や児童生徒の笑顔で元気に過ごしている姿を見ると、子ども達をしっかりと育成し、大人の責任で次世代に繋げていかなければならないと感じた。

2 校長面談(10/30～)

- 今年2回目となる面談を明日から行う予定である。校長からは「自己申告シート」に基づき、教育活動全般に対する中間評価を受けることにしている。
- 学力向上に向けた対策については、全国学力・学習状況調査やNRTの結果を踏まえた具体的な取り組みの状況や教職員の勤務時間の管理、登下校の見守りに対する地域の状況などを聴き取りたいと考えている。

3 10月の行事より

(1) 市展(10/12～15)

- 今年の燕市美術展覧会は、第13回目として市民の皆さんに優れた芸術に触れる機会を提供するとともに、日ごろの美術活動の発表や研鑽の場として、燕市中央公民館と燕市文化会館で開催した。
- この市展に合わせてMOA美術館つばめの児童の入選作品と、8月に開催した「水道の塔を描こう」の児童の作品展も同時に開催した。
- 日本画(25点)、洋画(22点)、工芸・彫刻(23点)、書道(23点)、写真(36点)の合計5部門で129点(H29年度141点)の作品が展示された。年々出展数が少しずつ減少する中、どの作品も非常にレベルの高い優秀な作品であり、多くの市民の皆様からご来場いただいた。今年から高校生を対象とした「スワロー賞」を設けたところ、書道部門で入賞した。今後に期待したい。

(2) ミズノビクトリークリニック(10/15)

- 昨年に引き続き、リオデジャネイロオリンピック陸上400mリレーで銀メダ

リストの飯塚翔太選手を迎え、中学生など約70人を対象に実施した。

- 飯塚選手には、準備体操や走り方など基礎トレーニング、リレーでのバトンの渡し方などを中心に指導いただき、クリニック後は、じゃんけん大会も行われ、生徒も楽しみながらトップアスリートと触れ合っていた。
- (3) 新潟県都市教育長協議会秋季定期総会(10/16)
 - 村上市を会場に標記総会が開かれ、会員異動では、胎内市と妙高市の教育長に異動があった。なお、来年度の秋季定期総会は本市が開催市となる。
 - 国や県に対する要望は以下のとおり。
 - ① 空調設置工事に係る学校施設環境改善交付金の算定割合の拡充及び継続的な財政支援について
 - ② 特別支援教育を充実させるためのさらなる財政措置について
 - ③ 学習指導要領改訂等に伴う必要な教職員の配置について
 - ④ 通級指導教室担当教員の増員について
 - ⑤ スクール・サポート・スタッフ(S S S)の配置について
 - ⑥ 校務支援システムの共同化について
 - 部活動指導員の配置について情報交換が行われるとともに、国・県に対する要望に対しては、義務教育課長や保健体育課長、財務課の副参事から回答をいただいたが、県の財政もかなり厳しいとのことであった。
- (4) 燕市立小・中学校の発展を願う市民の会との懇談会(10/17)
 - 教育委員会からは、学校教育の現状として、①学力実態と学力向上の概要、②ICT機器の整備と活用、③学校図書館、④特別支援教育の現状、⑤登下校の安全確保、⑥燕長善タイムについて説明させていただいた。
 - 質疑では、様々なご質問と意見交換も行うこともでき、今後の教育行政を進めるにあたり大変有意義であった。子どもたち一人一人の成長のために学校や保護者、地域との連携をさらに強めていく必要があると感じ、引き続きのご支援・ご協力をお願いしたいと考えている。
- (5) 分水高校特色化に係る講演会(10/23)
 - 日本経済新聞社で専務執行役員で論説委員長を務める原田亮介氏から「君たちが生きる新しい時代」と題して講演をしていただいた。
 - 原田氏からは、情報過多の時代にこそ正しい情報を集め、正解のない課題に対して自分で考え、決断を人任せにしない、自分で選択したなら間違ってもやり直しができることなどを示唆に富んだ話しをしていただいた。
- (6) いじめの事例から学ぶ校長研修会(10/23)
 - 県教育委員会のいじめ対策生徒指導支援室から講師を招き、「いじめの事例から学ぶ学校現場の適切な対応」と題して小中学校長の研修会を開催した。
 - 当日は、平成24年に滋賀県大津市の自殺事案から、これまでの国・県におけるいじめ対策の経緯や県内のいじめ認知件数、これまでに学校で起きた事

例の検証結果などについて研修することができた。

- いじめはどの学校にもどの子どもにも起こりうることから、各学校は、自校のいじめ防止やいじめが起きたときの対応について改めて点検を行うとともに、児童生徒の命を守ることを徹底しなければならないと感じた。

(7) 小学校プログラミング研修(10/24)

- 県立教育センターの指導主事を招き、新学習指導要領におけるプログラミング教育の考え方や実践例について、分水北小学校で研修会を実施した。
- グローバル化の進展、産業構造や就業構造の転換、生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷などにより「求められる力」が変化している状況にある。
- 小学校では、教育課程全体を見通し、プログラミングを実施する単元を位置づけていく学年や教科等を決定する必要がある。現在、3年生以上の学年で実施する教科や単元で効果的なプログラミング教育が実施できるよう準備を進めており、新年度から各学校で共通の指導を行いたいと考えている。

(8) 燕北小学校 50 周年記念式典(10/27)

- 当日は、市長とともに出席した。第一部は記念式典が行われ、第二部は全校児童がそれぞれ学年ごとにお祝いの言葉を入れた歌や踊りの披露があり、様々な工夫の中、地域の皆様とともに祝うことができた。
- なお、当校は、昭和44年に燕西小学校から分離独立し、昭和48年に燕北幼稚園が開園し、現在に至っている。

○委員（中野 信男）

プログラミング教育は、いつから導入されるのか。また、文部科学省からはどのような授業内容を求められているのか。

○主幹（二平 芳信）

小学校では平成32年度から導入される。プログラミング教育は授業時間数の定めがなく、教科としても扱われないため、算数や英語の中でプログラミング的思考を養うような授業を実施するよう文部科学省から指示が出ている。また、中学校ではすでに技術・家庭科でプログラミング教育が導入されている。

○委員（中野 信男）

中学校ではどのような授業を行っているのか。

○主幹（二平 芳信）

オーロラクロックというロボットを、パソコンを使ったプログラミングにより動かすという内容の授業を行っている。

○委員（中野 信男）

小学校で使用するプログラミング言語は、文部科学省が指定しているのか、それとも市で選定するのか。

○主幹（二平 芳信）

文部科学省からの指定はない。燕市では、スクラッチというプログラミング言語を使用する方向で進めている。

（3）寄附報告

〈宮路学校教育課長が説明〉

4. 専決処分報告について

報告第 13 号 共催・後援の教育長専決報告について

10 件の共催・後援について

〈No. 1、2、5、6、7、8、10 について更科社会教育課長が説明〉

〈No. 3、4 について宮路学校教育課長が説明〉

〈No. 9 について白井子育て支援課長が説明〉

報告第 14 号 燕市一時保育事業実施要綱の一部改正について

〈白井子育て支援課長が説明〉

5. 協議題

協議第 8 号 新規共催・後援申請について

2 件の後援について

〈No. 1 について更科社会教育課長が説明〉

〈No. 2 について宮路学校教育課長が説明〉

○委員（黒川 優子）

「外国につながる子どもたちと保護者のための進路ガイダンス」という事業の「外国につながる子ども」とは具体的にどのような子どもを言うのか。

○学校教育課長（宮路 一規）

様々な事情で、外国から県内に移住してきている子どもたちである。日本の学校制度、進学仕組み等を分かりやすく伝え、不安や疑問を解決し、就学を支援することを目的としている。

6. 議 案

議案第 34 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について
〈宮路学校教育課長が説明〉

○委員（黒川 優子）

各学校に、地域コーディネーターが活動するスペースは確保されているのか。

○教育次長（山田 公一）

学校によって異なるが、部屋を用意したり、教務室内のスペースを提供したりしている。

○委員（黒川 優子）

地域コーディネーターは、毎日、学校で業務に従事しているものなのか。

○教育次長（山田 公一）

打合せや行事があるときなど、必要に応じて来てもらっている。

7. その他

(1) 齋藤和夫前教育委員の地方教育行政功労者表彰の受賞について
〈宮路学校教育課長が説明〉

(2) 分水小学校区における保育園の整備・運営事業者募集要項について
〈白井子育て支援課長が説明〉

8. 閉 会 午後 2 時 37 分

教 育 長 仲野 孝 _____

会議録署名委員 秦 久美子 _____

会議録調整者 矢川 麻里子 _____